

# 南アフリカ為替週報

2022年3月24日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

## <過去1週間の動き>

(3月17日～3月23日)

USD/ZAR: 14.7375～15.0300  
ZAR/JPY: 7.93～8.21 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は上昇。南ア固有の要因では、17日に実施された周波数帯入札の成功はとりわけ好意的に評価できたはずだが、ランドが材料視した様子はほとんど読み取れなかった。23日に発表された南ア2月CPIは、前年比+5.8%への上伸を見込んだ市場予想を裏切り同+5.7%にとどまったものの、24日の南ア準備銀+25b.p.利上げ予想にはほとんど影響なく、同指数発表後のランド続伸にも、どこまで影響したか判然としなかった。代わってランド買いを促したのは、おそらく、円全面安とランド/円の上昇。この間、円は対ドルで2016年2月来の121円台まで急落(ドルは急騰)、その他主要通貨に対しても軒並み急落した。対ランドも例外ではなく、ランド/円は23日までに昨年6月の高値(8.16)を上抜け、8.21まで2019年2月来の高値を更新した。円安を招いた要因としては、①金融政策と長期金利動向の方向感の違い ②燃料価格高騰を受けた日経常収支悪化懸念を挙げることができた。いずれも目新しい要因とは言えなかったものの、①は、欧州中銀による年内利上げの可能性が高まり(17日)、米連銀パウエル議長が+50b.p.幅の利上げに踏み切る可能性を示唆した(22日)一方で、日銀黒田総裁が「日本は金利を上げる必要は全くない」と述べる(18日)など、方向性の違いはより鮮明になったし、②並行して原油価格がほぼ一方的な上昇を続けたことなどが、円安を加速させた。

## <過去1週間に発表された主要経済指標等>

| 月日   | GMT  | 指標       | 期間 | 発表    | 予想*   | 前回    |
|------|------|----------|----|-------|-------|-------|
| 3/23 | 8:00 | CPI(前年比) | 2月 | +5.7% | +5.8% | +5.7% |

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

## <向こう2週間の見通し>

(3月24日～4月6日)

USD/ZAR: 14.400～14.900  
ZAR/JPY: 8.00～8.35

向こう2週間の南ア・ランド相場は、もう一段の上振れを予想。対ドルでの高値の目途として、昨年6月の高値(13.4150)と昨年11月の安値(16.3675)の半値戻しとなる14.89125を意識していたが、現在までに上抜けて、天井を打つ気配を見せない。ウクライナ情勢を巡る混乱の陰で、ランドはほとんど反応を示さなかったものの、17日の周波数帯入札の成功は、ラマポーザ大統領の改革推進という目線で、非常に重要な一里塚と言えたはず。実施が遅れていた同入札が、無事に完了ただけでなく、当初政府が目論んでいた80-100億ランドを大幅に超える144億ランドを落札させることができた。燃料純輸入国である南アにとって、燃料価格高騰は、勿論悪材料だが、資源輸出国でもある南アには、貴金属、産業金属などの価格上昇は、交易条件の改善を通じた貿易/経常/財政収支改善要因として好感できる。一方で、南ア準備銀金融政策を巡る市場の思惑は、引き続き、現実的な落としどころ以上に、積極的な利上げが織り込まれているように感じられる。24日の25b.p.利上げは揺るがないところかもしれないが、金利先渡市場などが、向こう1年で合計225b.p.を超える利上げ(24日の+25b.p.利上げ予想を含む)を織り込んでいるのは、踏み込み過ぎのように感じられる。物価がこの先、まだまだ上振れるのは確実であろうが、主要国、新興国問わず、実質政策金利(政策金利-インフレ率)が大幅にマイナスなのが常態化している現状から、そのマイナス幅を極端に縮める必要があるほど、南ア経済だけが堅調であるとは思えない。

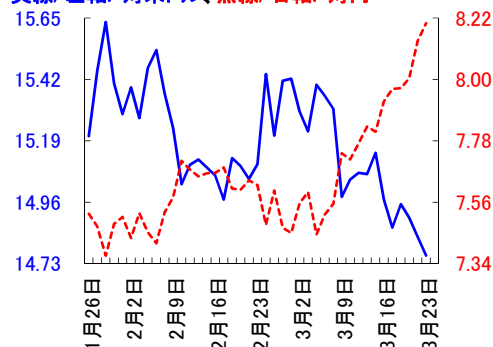
## <向こう2週間に発表予定の主要経済指標等>

| 月日        | GMT   | 指標           | 期間 | 発表 | 予想*   | 前回      |
|-----------|-------|--------------|----|----|-------|---------|
| 3/24      |       | 南ア準備銀政策金利    |    |    | 4.25% | 4.00%   |
| 3/28-3/31 |       | 失業率          | Q4 |    | 35.0% | 34.9%   |
| 3/30      | 6:00  | 民間部門信用(前年比)  | 2月 |    |       | +3.12%  |
|           | 12:00 | 財政収支(ZAR)    | 2月 |    |       | -65.9bn |
| 3/31      | 12:00 | 貿易収支(ZAR)    | 2月 |    |       | +3.6bn  |
| 4/1       |       | 自動車販売統計(前年比) | 3月 |    |       | +18.4%  |

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

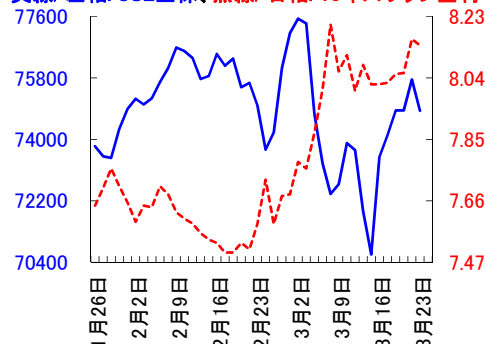
## 為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



## 株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



## 南アフリカ関係主要経済指標

|                |       |          |
|----------------|-------|----------|
| 政策金利(レボ金利)     |       | 4.00%    |
| 長期金利(10年スワップ)  | 3月23日 | 8.140%   |
| 株価指数(JSE全株)    | 3月23日 | 74838.09 |
| 成長率(GDP/前年比)   | Q4    | +1.7%    |
| 経常収支(ZAR)      | Q4    | +120bn   |
| 失業率            | Q3    | 34.9%    |
| 消費者物価(前年比)     | 2月    | +5.7%    |
| 小売売上高(前年比)     | 1月    | +7.7%    |
| 製造業生産(前年比)     | 1月    | +1.9%    |
| 鉱業生産(前年比)      | 1月    | -0.1%    |
| 貿易収支(ZAR)      | 1月    | +3.6bn   |
| 金価格(ロンドン17:00) | 3月23日 | 1935.62  |

## <お知らせ>

筆者休暇のため次回の「南アフリカ為替週報」は4月7日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。